

文化庁

47. 10

〈月報〉

昭和47年10月15日 発行

編集 文化庁長官官房庶務課
発行

東京都千代田区霞が関3-2-2

電話 代表 (581) 4211

郵便番号 100

—〈第50号〉—

(題字=今日出海 前文化庁長官)

ステンドグラス

「ソロモンとシバの女王」十三世紀



- ▽昭和48年度文化庁概算要求と
まる……………2
- ▽芸術祭虎の門ホールで祝典……………8
- ▽包括宗教法人の行なう事業調
査……………10
- ▽著作権法改正についての要望……………10
- ▽著作権者不明の著作物の裁定……………11
- ▽昭和46年度著作権・出版権・著
作隣接権の登録……………11
- ▽著作権シリーズ(二十二)……………12
- ▽高松塚総合学術調査……………13
- ▽旧近衛師団司令部庁舎の保存決
定……………13
- ▽文化財補助金(第二回)交付決
定……………14
- ▽日本伝統工芸展授賞式……………14
- ▽第19回文化財保護強調週間……………15
- ▽沖縄復帰記念古美術展……………15
- ▽法人の新設……………15
- ▽国際交流基金の発足……………16
- ▽A・A教育指導者招致……………17
- ▽日本名陶百選展開会式……………17
- ▽国立博物館・美術館だより……………18
- ▽文化庁企画・提供テレビ番組……………19
- ▽国立劇場十一月公演……………20
- ▽文化庁日誌・人事異動……………20

文化財の保護

高松塚古墳の総合学術調査

さる三月、奈良県明日香村で発見された高松塚古墳の石室壁画については、当初から美術史学、歴史学、自然科学等の面での総合的な学術調査が必要であるとされていたが、九月三十日から約十日間にわたり、各部門の専門家による調査が行なわれた。調査の時期については、同古墳の当面の保存対策を検討していた「高松塚古墳応急保存対策調査会（座長、東京国立文化財研究所長関野克氏）」の中間報告により、九月下旬～十月中旬の間で選ばれたものである。また、総合学術調査は、その性格上、「高松塚古墳総合学術調査会（会長、原田淑人氏）」を設け、文化庁からこれに委託して行なわれ、同調査会は、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国およびフランスの学者を招聘して、現地調査、外国学者との意見交換を含む調査、研究を実施した。

「高松塚古墳総合学術調査会」の構成および招聘された外国学者は次のとおりである。

会長、原田淑人（日本学士院会員）
副会長、石田茂作（前奈良国立博物館長）、坂本太郎（東大名教授）、末永雅雄（檀原考古学研究所長）、田中

一松（前東京国立文化財研究所長）
委員 秋山光和（東大教授）、岡田譲

（東京国立近代美術館長）、尾崎元春（日大講師）、亀田孜（東北大名誉教授）、蔵田蔵（奈良国立博物館長）、鈴木敬（東大教授）、長広敏雄（橘女子大教授）、松下隆章（京都国立博物館長）、源豊宗（元帝塚山学院大教授）、山辺知行（英立女子大教授）、米沢嘉圃（武蔵野美術大教授）、平山郁夫（東京芸大助教授）、吉田誠二郎（東京芸大教授）、有光教一（元京大教授）、斎藤忠（大正大教授）、関野雄（東大教授）、樋口隆康（京大助教授）、井上光貞（東大教授）、岸俊男（京大教授）、森鹿三（仏教大教授）、藪内清（龍谷大教授）、島五郎（元大阪市立大教授）、関野克（東京国立文化財研究所長）、山崎一雄（名古屋大教授）
専門委員、秋山日出雄（檀原考古学研究所員）、綱千善教（開西大助教授）、有賀祥隆（美術工芸課技官）、江本義理（東京国立文化財研究所室長）、北村文治（記念物課主任文化財調査官）、鈴木友也（美術工芸課調査官）、

伊達宗泰（檀原考古学研究所員）、田中琢（記念物課調査官）、浜田隆（美術工芸課長）、安田博幸（武庫川女子大教授）、横山浩一（奈良国立文化財研究所主任調査官）、柳沢孝（東京国立文化財研究所主任研究官）
招聘学者
大韓民国 金載元（東亜文化研究委員会委員長）、金元龍（ソウル大学教授）、雀淳雨（国立博物館美術課長）、季基白（西江大学教授）

旧近衛師団司令部庁舎の保存決まる

皇居周辺の北の丸公園地区内にある旧近衛師団司令部庁舎は、戦後一時皇官警察の仮宿舎として使われてきたが、昭和三十八年に建設省の手で北の丸公園の整備が始まって以来空家となっていた。昭和四十一年十一月に、閣議でこの地区には現在ある科学技術館、日本武道館、国立公文書館および東京国立近代美術館以外の建築物の設置は認めないとの方針が決まり、とりこわされることになった。

しかしこの庁舎が、明治四十三年に建設された明治時代洋風れんが造建築の典型として、また官公庁建築の遺構としても貴重な建造物であるため、日本建築学会等から積極的な保存存置の声があがり、文化庁としても、この庁舎の保存方について建設省に申し入れを行ない、話し合いが進められていた。このほど稲葉

朝鮮民主主義人民共和国 キム ソク ヒョン（社会科学歴史研究所長）、チュ ヨン ホン（社会科学研究所考古研究所副所長）、キム チョル ホ（朝鮮歴史博物館学術員）、キム ソク チョン（金日成総合大学教授）
フランス Y、M、フロアドボー（ボザール大学教授）J、ポーシヨン（パスツール研究所地中微生物、生物化学部長）

文部大臣と木村建設大臣との間で話が進み、九月十二日の閣議で、旧近衛師団司令部庁舎を存置すべき建築物に含めるものとし、東京国立近代美術館の分室として保存されることが決まった。この決定にともない、かねてこの庁舎の指定について諮問をうけていた文化財保護審議会から重要文化財指定の答申が同日付けであった。

文化庁では、この答申をうけて指定後は本年度ただちに応急修理に着手するとともに、四十八年度からは二か年計画で本格的改修修理を行ない、改修後は、東京国立近代美術館の分室（伝統工芸作品陳列室）としてその活用をはかる計画である。